

会津若松市赤十字防災ボランティア

会津若松市赤十字防災ボランティア				
2013年度				
1	9月21日(土)	17人	花いっぱい運動	会津若松市 若松公園公民館在室
2014年度				
1	7月19日(土)	17人	多岐亭(富士海産物作る会、ハンドマッパーツ)	会津若松市 若松公園公民館在室

[活動の実績はこちら](#)



★いつから活動されていますか？

- 2012年12月より活動開始

★対象はどちらの地域の方ですか？

- 大熊町住民の皆さん。比較的若い子育て世代および高齢者が多い仮設住宅であり、にぎやかで明るい人たちが多く感じる。

★どんな活動をされていますか？

- 震災の翌年(2012年12月)に発足した。
- 会津地方は災害が少ない地域であることから、他地域での被害、災害や危機管理に対する意識を自分の事に置き換える意識がないように感じていた。防災に関して危機管理意識を高めるために、地域に根ざした防災ボランティアの必要性を感じ、発足した経緯がある。
- 防災ボランティアとして、市の防災訓練への参加や市の危機管理課から講習会参加の要請があることは、今後の活動のために素晴らしいと感じていて、立ち上げて良かったと思っている。
- 様々な訓練に参加させて頂きながら防災士の資格を取得された方もいる。現在は会費会員含め約50名。約20名が実質活動をしている。
- 仮設住宅にいらっしゃる方々に手を差し伸べ、みんな温かい気持ちになって頂きたい思いがある。年に2,3回の活動を実施しているおり、会員の意識向上、一体感醸成に役立っていると感じている。
- 笹巻き作り、手芸、豚汁やこづゆ(会津郷土料理)作りなど、活動の際は、住宅一軒一軒に声をかけ、高齢にため参加できない方にはお届けた。



★活動を始める際、どこでだれと協議しましたか(どなたの発案ですか？)

- 三役で決定した。炊き出し等の経験から、会の三役で話し合って立ち上げることにした。
- 大熊町社会福祉協議会へ相談の折、職員から「直接話し合って」と言われたので、何か所も何度も仮設住宅へ足を運んだ。
- 仮設住宅の自治会ではなく、大熊町町内会宛に文書を出し、仮設住宅の掲示板に掲示して頂き活動の呼びかけをしている。参加人数の確認は電話でしている。
- 会津若松市赤十字防災ボランティアは、救急法指導員の資格等を持った方や消防士赤十字奉仕団活動にも長年携わってきた団員が何人か在籍し、赤十字の活動をする上ではノウハウを知り尽くしているといえる。

★被災された方々の声はどうでしたか？

- 何回か活動しているうちに自分の話をしてくれるようになった。
- 着のみ着のまま、子供を守らなければと思い避難した話や高齢者の話を伺うと、身につまされることが多かった。
- 当初具体的活動の場については、お互いぎこちない感じで会話をしていた。(お互い緊張から、敬語や標準語での会話)
- 食を通して交流の場を盛り上げたいとの考えから、「こづゆ(会津郷土料理)を作りませんか？」と声をかけた。教えて下さいとのことだったので、そこから活動が広がった。こちらからも何か教えて下さいと提案し、お互いが情報共有できるような関係を継続している。

★支援活動において良かったことは何かありますか？

- 仮設住宅に活動に入った際、おもてなしを受け、逆に私達が元気をいただき感激した。
- 「私達は決して先生でも何でもありません。わからない事は教えて下さい。お互い一緒に頑張りましょう。」と言って活動している。「一緒にやりましょう」と声をかけると、皆さん来て下さる。手話のみでコミュニケーションをとる方もいるが、明るく笑いが絶えない。

★大変だったこと・困ったこと等ありましたらお聞かせ下さい

- 培ってきた経験を基にコツコツと活動を続けているが、当初、会津地域は県内でも有数の仮設住宅が建設された場所であることから、活動を開始する際、どこを活動点にして良いかわからず大変困った。

★今後の支援活動において何か新しい取り組み等がありましたらお聞かせ下さい

- 茶話会などやりたい。心の繋がりを持てるような活動をしたい。
- 芋煮会も実施したい。皆さんの意見を聞きながら活動にあたりたい。
- いざという時、動ける赤十字奉仕団であり続けたいと思う。



★支援者(奉仕団や他団体)の「こころのケア」の必要性を感じますか？

- 必要を感じない。なぜなら団員は出来ることを出来るペースで実施している。活動においては内容にも得意としているところで活動できるよう細かく配慮している。
- 今まで県支部、地域の沢山のの方々にお世話になっている。今度は自分達が皆さんに少しでも喜んでいただける活動をし、地域にお返しをしていきたい。皆さんに喜んでいただける事が喜びである。繋がりを大切に楽しく活動している。
- 最後に皆さんの元気な笑顔を思い、これからの仮設住宅の方々との関わり方、これからの復興支援の内容を考えた役立つ活動につなげたい。